

資源評価調査委託事業
スルメイカ漁場一斉調査（要約）

今村豊

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

6月と8～9月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。なお、本調査は、北海道沖太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、本県のほか、北海道区水産研究所、北海道、岩手県、宮城県の関係県が分担して実施した。

1. 第一次調査

- (1) 期 間：平成29年6月2日から6月8日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点について、seabird社製CTD・9plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式4台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

2. 第二次調査

- (1) 期 間：平成29年8月31日から9月6日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点について、seabird社製CTD・9plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、8地点において2連式4台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

結 果

1. 第一次調査

津軽暖流の水温は、0m層が「やや高め」、50m層が「はなはだ高め」、100m層が「かなり高め」、水塊深度は「かなり浅め」、東方への張り出しが「平年並み」という結果であった。

また、14地点中1地点のみでスルメイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は7.1%であった。漁獲尾数は2尾で外套長は14cm、17cm、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.33であった。

2. 第二次調査

津軽暖流の水温は、0m層、50m層及び100m層共に「平年並み」、水塊深度は「やや浅い」、東方への張り出しが「やや弱め」という結果であった。

8地点中4地点でイカ類が漁獲された。8地点中1地点でスルメイカ、3地点でアカイカが漁獲され、スルメイカの有漁率は12.5%、アカイカの有漁率は37.5%であった。漁獲されたスルメイカは1尾、外套長は20cmで、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.17であった。また、漁獲されたアカイカは1尾から13尾、外套長は17cmから31cmで、1台（1ライン）・1時間当たりのCPUEは0.01から0.50であった。

発表誌：平成29年度イカ類漁場開発調査資料第43号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成30年7月